**全国障害者問題研究会の研究誌**

**障害者問題研究**

Vol.51

No.４４

第５１巻 第４号

 子どもの食と

 　 発達保障

　　 を読む会

**日時　４月1２日**（金）**19時～21時**

zoomミーティングによる開催

 

食は命をはぐくみ命をつなぐもの

楽しく生活をゆたかにするものでありたい

でも、ときに苦しく、むずかしくなる

お求めは

全障研出版部

新宿区西早稲田2－15－10西早稲田関口ビル4階

電話（03）5285－2601・FAX（03）5285－2603・nginet.or.jp



【話題提供】

子どもの食と発達保障　**河原紀子さん**（共立女子大学）

嚥下障害のある子どもの「おいしい」を地域で支える　**大髙美和さん**

（NPO法人ゆめのめ）

■参加者の意見交流■



○参加費無料。お手元に当該号をご用意ください。

○読む会参加申し込みフォーム（右）から注文できます。

問い合わせ　全障研事務局　info@nginet.or.jp

参加申込

[https://form.run/@shoumonken51-4](https://form.run/%40shoumonken51-4)

**特集にあたって　　　　　　　　　　　　　　楠　凡之**（本誌編集委員）

51巻4号 特集/子どもの食と発達保障

　食は子どもの生存を支えるだけでなく，心身の成長，発達に大きな影響を及ぼしていく．

　河原は子どもの食の発達とその危機の問題を乳幼児の自我発達の過程と関係づけながら考察し，否定的にみられがちな「好き嫌い」を乳幼児の自我発達との関係で説明している．そして，食事指導では，子どもを受け身的にするのでもなく，子ども任せにするのでもない，子どもの主体性を尊重したかかわりの重要性を指摘している．

　田部・高橋は，発達障害等の子どもの食物選択性（いわゆる偏食）の背景にある要因を感覚過敏，身体の不器用さなどから捉えつつ，発達障害当事者が食べ物の色・形，匂い，触感に関する苦手，不快の程度が強いにもかかわらず，それらへの理解が欠如した「指導」によって多くの当事者が外傷体験を味わっていることも指摘している．また，発達障害等の子どもをもつ保護者も我が子の食事で様々な苦労を体験したり，周囲からの非難に傷ついている実態も指摘しつつ，保護者に対する専門的な支援の必要性も提起している．

　田村・水上は乳幼児期における「食べる機能」の発達過程を概観しつつ，小児の摂食嚥下障害の発生機序を，器質的要因，機能的原因，心理的原因，食環境などの観点から検討している．

　また，摂食指導として，①感覚過敏への指導，②鼻呼吸の指導，③口唇を閉じる指導，④咀嚼を促す指導など，の観点から整理している．

　保育園の管理栄養士の宮田は給食の野菜の皮むきを手伝ってもらうなど，子どもたちとの日常的な触れ合いを築き，自分の「好き嫌い」も職員に伝えられ信頼関係を創造している．また，子どもに食事を作る過程も見せることで子どもが安心感と見通しを持って食事に挑戦していけるように援助している．さらに試食カフェなどを通じて我が子の食に悩む保護者への支援も行っている．

　大髙は食指導に特化した障害児通所事業所を開設し，重度の摂食嚥下障害をもつ子どもにも食を楽しむ権利を保障するために，子どもの口腔機能や食への興味に合わせた食を提供するとともに，保護者の苦悩に寄り添い，一般家庭でもできる食の様々な工夫を提案し，支援を行っている．

　特別支援学校教諭の三輪は，自閉的傾向があり，偏食が極度に強いシゲ子への食事指導で大失敗する体験を反省しつつ，シゲ子との信頼関係を築き，シゲ子の主体性を尊重した食指導，また，シゲ子が大好きな仲間の行動をモデリングしながら食の世界を広げていく取り組みを進めている．

　土崎は食への強いこだわりをもつ我が子の体験を振り返り，「偏食」という言葉自体がもつ否定的な響きに対する強い異議を指摘している．そして，発達障害の子ども自身の食物選択性を尊重しつつ，支援していくことの重要性を指摘している．土崎は現在，NPO法人を立ち上げ，発達障害の子どもをもつ保護者の支援にあたっている．

　この特集のタイトルは食と発達保障であるが，これらの論文と実践報告を読むと，食と発達保障の問題がいかに深くつながり合っているかを痛感させられる．是非とも多くの実践現場でこの特集での知見が豊かに活用されることを願っている．（くすのき　ひろゆき　北九州市立大学）

**■この号のもくじ■**

**特集にあたって**　楠　凡之　1

子どもの食と発達保障●河原紀子　2

発達障害等の発達特性を有する子どもの食の困難と発達支援●田部絢子・髙橋智　9

食べる機能の障害とハビリテーション●田村文誉・水上美樹　17

実践報告

乳幼児期の食とコミュニケーションの実際●宮田隆子　26

摂食嚥下障害のある子どもの「おいしい」を地域で支える●大髙美和　32

信頼関係の大切さを教えてくれたシゲ子●三輪容子　38

報告

発達障がいの子どもを育てるということはこだわりと偏りのハーモニー●土崎幸恵44

連載　実践に学ぶ

病弱特別支援学校の実践　「やりたい」を力に　金澤園子　50

【金澤実践に学ぶ】猪狩恵美子　56

児童発達支援センターの実践 「田んぼ活動」で仲間と共に育つ子どもたち 岩松まきえ 58

【岩松実践に学ぶ】細渕富夫　64

連載　ワイドアングル　社会保障と居住権　佐藤和宏　66

動向　小児がん等の難病により入院中の子どもの教育に関する国の動向と当事者団体の要望　栗山宣夫　72

第51巻総目次　79



**●読む会へのおさそい●**

**食は人間の生命と健康を支える上で不可欠であり、人間発達の根幹をなす重要な営みである――特集の河原紀子さんの論文の言葉です。**

**空腹が満たされるだけでなく、食は文化でもあり、他者と食をともにして安心や心地よさを味わいたいものです。しかし、発達障害などのため過敏性があったり、摂食嚥下障害があって上手に食物をとりこめなかったり、食べることが楽しめず、苦痛となる場合があります。食の経験がときに心的外傷にさえつながることさえ。**

**本特集は、障害と食、発達と食を考える論文を掲載するとともに、保育所や児童発達支援、特別支援学校、親としての苦しい経験からそれぞれに食をゆたかな生活につなげる取り組みを報告しています。幅広い読者のみなさんのご参加をお待ちしています。**

**編集委員会は、子どもの生活に欠かせない要素として、「遊び」「集団」とともに、「食」をテーマにした特集を一連のシリーズとして企画することにしました。今回、その第2弾としての「食」の特集です。**



**読む会はオンラインリモートです**

『障害者問題研究』は、全障研の研究誌として、毎号、特集はじめ発達保障実践を深めていくための記事を掲載しています。全国各地から、教員・療育・成人分野・当事者・家族などさまざまな立場、職種がひとつの場に集い、学び合い、語り合います。

お求めは



全障研出版部

新宿区西早稲田2－15－10西早稲田関口ビル4階

電話（03）5285－2601・FAX（03）5285－2603 www.nginet.or.jp